

エジプト駐在武官

日誌(2)

榊枝 宗男 陸自75

駐在武官とは、外交官の身分で在外大使館に勤務し、主に安全保障・防衛関係業務に従事する制服自衛官のことを呼ぶ。正式には防衛駐在官の職名で、現在は44カ国及び国連軍縮代表部、ジュネーブ軍縮会議へ総数64人が派遣されている。(平成28年度末現在)

私はその職業柄、多くのエジプトの有識者や一般の軍人、警察官と話をする機会を得た。

彼らはユーモアの天才だ。ひげ面の風貌から、日本人なら一步引く印象を持つだろう。しかし、彼らは外観とは全く異なり、いつも「ヌタック」と呼ぶこんな笑い話、冗談を披露する。

大統領選が行われた1993年の時のことだ。当時の現職ムバラク大統領の3期(一任期6年)の信任投票となった。対抗馬はいない。ある村で、有権者の青年が、投票所へ行った。選挙管理委員から○か×を記入する投票用紙に「×」を記入し投票した。帰宅後、父親にそのことを話したところ、父親は真つ赤になって息子に「すぐ投票所へ戻って書き直してこい。さもないと秘密警察が、うちの家族全員を逮捕に来るぞ!」青年は急いで投票所へ戻り選挙管理委員に「さっきの投票用紙を返してくれ」と懇願した。その選挙人曰く「もう既に○に書き直しておいたよ」と。

彼らは絶対に自分の腹立ちや不満・欲求をストリートに相手にぶつけることはない。皮肉とユーモアを込めて小話を聞いて、アラブ流の巧妙な言い回しで聞く者の笑いと同意を誘い、重苦しい気分自分と聞き手の胸にズバリ風穴を開けてくれる。この「ヌタック」小話の鋒先は大統領から物乞いまでが対象となり、その効果は小粒でもピリツと辛いサンショウと同じで、エジプト社会の潤滑油でもある。

さて、わが国の選挙ももう聞くに堪えない中傷合戦から、そろそろアラブ流の笑い「ヌタック」が必要だ。



エジプト外務省迎賓館
ムバラク大統領写真 平成19年6月